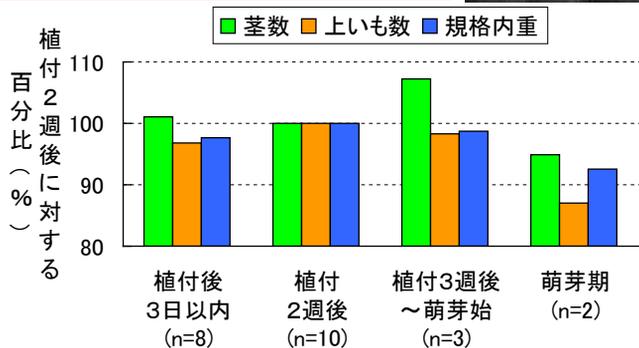




ばれいしょ早期培土栽培の安定化

培土の施工適期は 植付後～萌芽始



茎密度による生産診断

種いもの大きさと株間から、茎密度を推定できます(表1)

茎密度から収量を予測できます



茎密度に応じて、種いもの大きさから適正な株間を推定できます

ほ場の収量水準に応じて適正な茎密度を推定します(表2)

ただし、**培土のひび割れ**が多いと品質低下(緑化の増加)や、規格内重が低下しやすい。
培土のひび割れが発生しやすいのは、

- ①高い土壌水分に培土したとき
- ②培土～2日後に多量の降雨があったとき、
- ③培土の土量の不足や、培土が崩れたとき。

培土施工後のひび割れ



培土が崩れたり、土量不足のときには、培土のかけ直しが有効ですよ。

施肥法は 作条施肥が最も多収

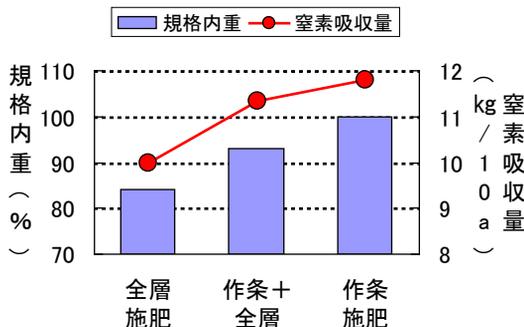


表1 品種別にみた、種いもの大きさおよび株間と茎密度の関係

品種名	種いもの大きさ (g)	茎密度 (本/㎡)					
		株間 (cm)	24	27	30	33	36
男爵薯	40	21	19	17	15	14	12
	50	24	21	19	17	16	14
	60	27	24	21	19	18	16
メークイン	40	22	19	17	16	15	13
	50	25	22	20	18	17	15
	60	27	24	22	20	18	16
マチルダ	40	21	19	17	15	13	12
	50	24	21	19	17	15	14
	60	27	23	21	19	17	15
トヨシロ	40	16	14	13	11	10	9
	50	17	15	14	13	12	10
	60	19	17	15	14	12	11
きたひめ	40	14	12	11	10	9	8
	50	16	14	12	11	10	9
	60	17	15	13	12	11	10
スノーデン	40	20	18	16	15	14	12
	50	24	22	20	18	16	15
	60	27	24	22	20	18	17
さやか	40	9	8	7	7	6	6
	50	10	9	8	7	7	6
	60	10	9	8	8	7	6
ホッカイガネ	40	18	16	14	13	12	11
	50	20	18	16	15	14	12
	60	21	19	17	16	15	13

注) 2週間程度浴光催芽した場合の試算で、誤差は1本程度である。

表2 品種別にみた、収量と適正な茎密度の関係

品種名	収量水準 (t/10a)	規格内重が最大となる茎密度 (/㎡)				同左 上いも 1個重 (g)	規格内の範囲
		4.0	4.5	5.0	5.5		
男爵薯	15	17~18				92~98	60~260g
メークイン	12	14~15	17~18			103~104	
マチルダ	11	13	16			71	
トヨシロ	10~11	12	14	16~17		101	60~340g
きたひめ	11~12	14~16	18~21			101~110	
スノーデン	13~14	16	18~19			98	
さやか	8	9~10	11~12			112~116	
ホッカイガネ	9	11	13	15~16		122	

注) 目標収量水準は過去の生産履歴などから、決定して下さい。

全層施肥は、春先の省力化には有効ですが、作条施肥より窒素吸収量が少なく、規格内重が劣ります。

十勝農業試験場 生産研究部 栽培システム科・栽培環境科
 住所 〒082-0081 河西郡芽室町新生南9線2
 電話番号 0155-62-2431
 e-mail Tokachi-agri@hro.or.jp